

# 令和3年度 学校経営基本方針

## 「自立・協働・創造」の継承

—育成を目指す資質・能力を明確にし、次世代を見据えた教育活動を展開—

### ■はじめに

現在、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0」時代の到来とともに、新型コロナウイルスの感染拡大症など、先行き不透明な「予想困難な時代」を迎えている。急激に変化する時代の中で、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識（自立）するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら（協働）様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる（創造）ことができるようにすることが必要である。

学校が学習指導のみならず、生徒指導の面でも主要な役割を担い、児童生徒の状況を総合的に把握して教師が指導を行うことで、子どもたちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は、諸外国から高い評価を受けている。加えて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のための緊急事態宣言は、①学習機会と学力の保障②全人的な発達・成長の保障③身体的、精神的な健康の保障（安全・安心につながるができる居場所・セーフティネット）という学校の役割の重要性を再認識させた。

しかし、子どもたちの意欲・関心・学習習慣等や、高い意欲や能力をもった教師やそれを支える職員の力により成果を挙げる一方、変化する社会の中で国内では様々な以下の課題に直面している。

- 本来であれば家庭や地域でなすべきことまでが学校に委ねられていることになり、結果として学校及び教師が担うべき業務の範囲が拡大され、その負担が増大していることへの対応
- 子どもたちの多様化（特別支援教育を受ける児童生徒や外国人児童生徒等の増加、貧困、いじめの重大事態や不登校児童生徒数の増加等）への対応
- 学習意欲が低下している生徒への対応
- 教師の長時間勤務による疲弊や教員採用倍率の低下、教師不足の深刻化の解消
- 学習場面におけるデジタルデバイスの使用が低調であるなど、加速度的に進展する情報科への対応が遅れていることに対する対応
- 少子高齢化、人口減少によるがこう教育の維持とその質の保障に向けた取組の必要性
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立、今後起こり得る新たな感染症への備えとしての教室環境や指導體制等の整備

これらの課題に対応するために、前年度踏襲型の学校運営から脱却し、不断の改革を躊躇なく進めていかななくてはならない。教育振興基本方針の理念である「自立・協働・創造」を継承するとともに、学校における働き方改革の推進、GIGA スクール構想の実現、そして、育成を目指す資質・能力の明確化を図り新学習指導要領を着実に実施し、従来の日本型の学校教育を発展させた「令和の日本型学校教育」を実現させなければならないと考える。

すでに本町においても児童生徒一人一人にタブレット端末が配布されるとともに、校内には高速インターネットを整備、各家庭における通信環境の改善も進められている。ICTは2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の骨子となる「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる重要なツールである。これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、様々な課題に対応し、教育の質の向上に繋げていくことが必要である。

本町の独自課題として新ひだか町学校再編整備計画が挙げられる。今後は近隣の小中学校とともに教育内容の統合が必要となる。3年間継続した中1ギャップの取組とともに、発足した学校運営協議会（CS）の機能を生かし、地域、家庭と一体となり、町内課題についても解消できるように取組を継続していく。

## R3育成を目指す資質・能力「6つの重点」

育成を目指す資質・能力の3つの柱		R3 育成を目指す資質・能力「6つの重点」	本校生徒の実態	重点方策 個別最適な学びと協働的な学びを一体化（ICT機器の活用を図りながら）
知識・技能の習得	何を知っているか 何ができるか	<b>①各教科の学習内容を身に付けている</b> ・各教科で習う知識・技能を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付いていない生徒が多い。</li> <li>身に付いている生徒とそうでない生徒との差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の確実な定着</li> <li>既存の知識・技能との関連付け、組み合わせを意識させた授業を展開する。</li> </ul>
		<b>②各教科に応じた学び方を身に付けている</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の特質に応じた学習方法を身に付けている</li> <li>家庭学習習慣が定着している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身に付いていない生徒が多い。</li> <li>教科の特性に応じた勉強方法を理解していない。</li> <li>自ら課題を見つけることができない。</li> <li>家庭学習時間が短い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の内容を学ばせるとともに、教科の特性を踏まえた学び方についても学ばせる指導を行う。</li> <li>家庭学習の定着に向けた指導の充実。</li> </ul>
思考力・判断力・表現力の育成	知っていること・できることをどう使うか	<b>③課題を見つけ、深く考え、解決できる</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら課題を見つけている</li> <li>深く考えている</li> <li>根拠をもって判断している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的意識（必要感）が希薄。</li> <li>自ら課題を見つけることができない。</li> <li>与えられた課題には一生懸命。</li> <li>情報収集は調べるだけで考察がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科指導を中心に、目的意識を高めさせた上で次の場面を可能な限り設定する</li> <li>○深く考えさせる場面</li> <li>○生徒に判断させる場面</li> <li>○生徒に発表させる場面</li> <li>○生徒同士で議論させる場面</li> </ul>
		<b>④相手や状況を考えて発言・行動ができる</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>状況に応じた行動をしている</li> <li>自分の言葉で表現している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いつきで発言する。</li> <li>思いつきで行動に</li> <li>状況に応じて発表することが苦手で、発表原稿を棒読みする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間を中心に、目的意識を高めさせた上で、課題発見→思考→解決のプロセスを日常的に体験させる。</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等の涵養	どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか	<b>⑤自らの学びをコントロールしようとしている</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己実現のために学習を自己調整しようとしている</li> <li>自己の必要感や適性を考えて取り組もうとしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的意識（必要感）が希薄で与えられた課題には取り組むが、自ら学習課題を見つけることができない。</li> <li>家庭学習時間が短い。</li> <li>自分の学習状況を把握し、優先順序を考えて取り組むことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間を中心に、進路学習と関連付けて自己実現への意識（必要感）を高めさせた上で、課題発見→思考→解決のプロセスを日常的に体験させる。</li> <li>上記プロセスを振り返らせる中で、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考のプロセス等を客観的に捉える能力を意識させる。（いわゆる「メタ認知」）</li> </ul>
		<b>⑥苦手なことにも粘り強く取り組もうとしている。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要感をもち、あきらめずに継続しようとしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強く取り組む領域と、そうでない領域が明確。</li> <li>嫌なもの、苦手なものには粘り強さを発揮しない。</li> </ul>	

